［令和７年度総括評価表］　　（学校名：徳島県立鳴門高等学校　全日制）

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
地域の活性化につながる探究的な学びの育成	Ⅰ）「夢をかたちに」するために、常に自ら学び続ける力を育成	評価指標 Ⅰ） ①-1家庭で予習・復習やテスト勉強を計画的にしている生徒の割合80%以上。 ①-2授業で出された課題に意欲的に取り組み提出ができている生徒の割合90%以上。 ①-3単位制による多くの選択科目や少人数授業等が充実していると思う保護者の割合80%以上。 ②-11年次の進路希望調査による第1志望への進学率50%以上。 ②-2進路希望が明確な生徒の割合1年次90%以上、2年次95%以上、3年次98%以上。 ②-3放課後補習出席率80%以上。 ③生徒・教職員・保護者による図書の貸出冊数が、年間1800冊以上。 ④Educationプログラムを受講して良かったと思っている生徒の割合90%以上。	評価指標の達成度 Ⅰ） ①-1家庭で予習・復習やテスト勉強を子どもが計画的にできていると答えた保護者の割合は54%、家庭学習をしていると答えた生徒は75%であった。 ①-2 95%の生徒が提出できていると答えた。 ①-3 86%の保護者が充実していると答えた。 ②-11年次の進路希望調査による第1志望へ進学した生徒は36%であった。 （R7.12月末現在） ②-2 1年次83%、2年次92%、3年次94%。 （R7.6月現在） ②-3 放課後補習出席率86%。 ③生徒・教職員・保護者による図書の貸出冊数が、1580冊（令和7年12月末現在）。 ④Educationプログラムを受講して良かったと思っている生徒の割合97.6%。	総合評価 （評定） B （所見） Ⅰ） ①家庭学習は、保護者から見た子どもの姿と生徒の意識に相違がある。課題の提出は、教員の声かけや指導に生徒が応えた結果が数値として表れたと考える。 ②補習は十分な取組はできたが、進学への意欲喚起や将来の具体的なビジョンを持たせる指導強化が必要である。 ③生徒や行事を通じて、さらに地域や保護者に利用を周知させることが重要である。 ④今年度より開講した学校設定科目であったが、鳴門市教育委員会や鳴門教育大学のご協力により、無事に終えることができた。生徒たちは、入学当初に比べ、様々な面で大きく成長したと思われる。 Ⅱ） 教員を対象としたICT活用研修の実施により、授業におけるICTの活用が定着し、生徒が主体的にICTを用いて学習に取り組む場面が増加した。特に、AIを系統的に学べるプログラムを導入したことで、生成AIに対する理解が進み、効果的な授業展開が実現できたと考えられる。アンケート結果からも、本取組の学習効果が一定程度確認できた。	総合評価の評定については、自己点検を行うと厳しい評価となるが、評定Bでよいと思われる。	Ⅰ） ①毎年、生徒の家庭学習習慣についての数値は伸びてきてはいるが、到達目標達成には及んでいない。学習方法の指導改善等が必要である。 また、保護者から見た子どもの姿が、数値として上がることが課題であると考える。引き続き、面談や教科会年次会を頻回実施し、生徒の状況を個別に把握するとともに情報の共通理解に努める。研究授業や平常時の相互授業参観内容を日頃の取組に生かす。 ②進路に関する生徒への意識喚起が重要である。保護者との連携を密にし、個人面談・進路志望調査を通して、生徒の進路意識を向上させる。進路相談も担任中心だけでなく、各ポジションで教員が連携し、より良い進路指導に繋げる必要がある。 ③毎月1回「図書館だより」を発行し、新刊や展示を紹介して、保護者も図書館を活用するように働きかける。 ④EducationプログラムⅠについては、今年度の実施状況を踏まえ、内容や進め方等について見直したいと考えている。また、次年度から始まるEducationプログラムⅡについては、綿密な計画をした上で実施したいと思う。 Ⅱ） 生成AIに対する興味関心は高まりつつあるもの
	Ⅱ）ICTを効果的に活用し、地域の課題を探り解決策を考える力を育成	Ⅱ） ①-1 ICTを効果的に活用する授業が展開され、生徒自身が主体的にICTを活用していると思う生徒の割合75%以上。 ①-2AI活用方法に興味がある生徒の割合70%以上。	Ⅱ） ①-1授業においてICTを効果的に活用している、どちらかといえば活用している生徒の割合は85%であった。 ①-2 AI活用方法に興味がある・どちらかといえば興味がある生徒の割合は74%であった。			
	Ⅲ）地域と連携し、地域の活性化に貢献する力を育成	Ⅲ） ①地域と連携し、地域の活性化に貢献していると感じる生徒の割合が70%。 ②インターンシップ・校外体験学習等の参加者が70名以上。	Ⅲ） ①地域と連携し、地域の活性化に貢献していると感じる・どちらかといえば感じる生徒の割合は57%であった。 ②インターンシップ・校外体験学習等の参加者は20名。			
	Ⅰ） ①「教務課・進学課」 ②「進学課・就職課」 ③「図書課」 ④「Educationプログラム推進室」	活動計画 Ⅰ） ①担任面談の際授業に対する取り組み方を確認し、必要であれば教科面談を実施。 教員相互の参観授業を年2回以上実施。 教科会、年次会で学力向上に向けた検討会を年2回以上実施。 ②-1進路志望調査を年2回以上実施。 ②-2補習内容を生徒の進学希望に添ったものにする。 ②-3大学入学共通テストプレテストを、会場である鳴門教育大学で実施できるよう関係機関と調整する。 ③毎月1回「図書館だより」を発行し、新刊や展示を紹介して、保護者も図書館を活用するように働きかける。 ④EducationプログラムⅠを、4月～12月まで毎月1回各講座3コマ程度で実施する。年次末には、1年間の学びのリフレクションを行い、発表資料をまとめ、成果発表会を開催す	活動計画の実施状況 Ⅰ） ①定期考査や校外模試実施後、また長期休業開けや科目選択期間中など、様々な場面で担任面談を行い、必要に応じて教科担任との面談も行った。また、教員相互の参観授業、教科会、年次会を年2回以上実施した。 ②-1 1、3年次は年2回、2年次は年3回実施。 ②-2 補習内容は実力テストや模試対策、英検対策を行った。 ②-3 模試業者と調整し、公開模試を鳴門教育大学で開催していただき、本校生33名が参加した。 ③毎月1回「図書館だより」を発行したり、文化祭で展示作品を開放したりして、地域や保護者の方に働きかけた。 ④4月から1月にかけて、35時間の講座（10テーマ）を行った。1月には、1年間の学びのリフレクションを行い、成果発表会を開催した。			

		る。				
	Ⅱ） ①「情報課」	Ⅱ） ①-1共通アプリケーション、授業及び学習方法、危険管理対策、端末の運用管理等について教員研修を実施し、全教員がICTを活用した授業を行う。	Ⅱ） ①-1　ICTを効果的に活用するための教員研修を3回実施し、ICTを活用する授業を多くの先生方に実施いただいた。ソフトバンク株式会社が提供する生成AIを学習するプログラムを活用し、系統的に授業を展開することができた。	Ⅲ） ①地域や鳴門市役所、鳴門市教育委員会、鳴門教育大学などから協力を得て、地域の魅力や課題解決策を探究し、発信や提言をすることができた。しかし、自分たちの探究活動が地域の活性化や地域貢献につながったと感じた生徒は約6割程度であった。 ②近年、各種講座や体験学習への申込がオンライン申込が多くなっていることから、参加者数が少ない結果となった。		の、活用の深度や実践力には生徒間で差が見られる。次年度は、教科や年次段階に応じた場面を設定し、活用方法をより明確にする必要がある。教員研修において実践事例の共有や教科別の活用不法の検討を進め、授業での活用を一層推進していく。 Ⅲ） ①引き続き地域、関係機関との連携を深め地域の活性化につながる探究的な学びを模索していきたい。また、フィールドワークや講座・講演に加えて、生徒たちが地域の行事や活動に参加できるよう案内し、必要な情報を適切に提供していきたい。体験を通して、地域の一員として課題解決策を探究することにつながり、地域貢献の姿勢が育まれることを期待する。 ②より正確な人数を把握するために、アンケートを実施する。
	Ⅲ） ①「企画推進課、各年次主任」 （1）「1年次」 （2）「2年次」 （3）「3年次」 ②「進学課・就職課」	Ⅲ） ① (1)「撫養街道を歩く」と題してボランティアガイドと連携し、フィールドワークを実施。 (1)・(2)地域の人々や鳴門市役所、鳴門市教育委員会や鳴門教育大学と連携し、講座や講演等を年3回以上実施し、成果発表会を開催する。 (3)鳴門教育大学と連携し、講座や講演等を年1回実施。 ②インターンシップ・校外体験学習の参加を促す。	Ⅲ） ① (1)なると観光ボランティアガイド会の協力を得て、5月にフィールドワークを実施した。 (1)・(2)鳴門市のまちづくり出前講座を4回、鳴門教育大学の講演を1回実施し、地域の課題解決策や活性化について探究した。また、2月に成果発表会を開催した。 (3)鳴門教育大学の教授による講演を実施し、世界の現状を知り、どのように貢献できるか考えさせた。 ②インターンシップ・校外体験学習の参加者は減少した。				
「グローバルな視点」を持って地域社会に貢献できる力の育成	Ⅰ）ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな視点を持ち、社会の一員として行動できる力を育成	評価指標 Ⅰ） ①「全教科」を通じ、グローバルな視点を持ち、社会の一員として行動できる力が付いたと感じる生徒の割合は50%。 ②海外での語学研修や交換留学生の受入れ、海外交流提携校とのオンライン交流プログラム等に参加する生徒30名以上。	評価指標の達成度 Ⅰ） ①「全教科」を通じ、グローバルな視点を持ち、社会の一員として行動できる力が付いたと感じる・どちらかといえば感じる生徒の割合は78%であった。 ②姉妹校のドイツの高校生を、本校生徒の11名がホストファミリーとして受入れた。また、20名の生徒がオンライン交流に参加した。	（評定） **B** （所見） Ⅰ） ①「他の国ではどうか」や「なぜ違いが生まれるのか」などを考える習慣をつくることでどの教科でもグローバルな視点を持たせることが可能であると考えられる。 ②日本の文化や地域の良さを「伝える立場」になることで生徒の地元への理解や誇りが深まった。継続的な交流により、国際交流の土台を作り学校のみならず地域の国際化に貢献していきたい。 Ⅱ） ①英語検定、漢字検定、数学検定、歴史検定に十分な取組ができた。	鳴門市の中学校では、3年生全員が英語検定を受検しており、3級取得を目標としている。 高校でも、目的に応じた各種検定受験の奨励、指導をすることで、生徒の継続した学びとなる。 遅刻件数がなぜ多いのか、原因の分析や背後にある要因を考え、生徒課を中心に「いじめやめ	Ⅰ） 本校生徒13名が8月にドイツのエルンスト・ロイター学校を訪問、11月にはドイツから12名が来校して相互間の交流を深めることができた。授業や部活動での交流を通して、グローバルな視点を養うよい機会となったため、次年度も交流を継続していきたい。また、国際交流に関する案内を積極的に行い、詳細な情報を提供し生徒の参加を奨励していきたい。 Ⅱ） ①今後も資格試験の受験を奨励していきたい。 ②加入率を上げるために、部活動見学の期間を再検討したり、部活動紹介の充
	Ⅱ）知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の育成	Ⅱ） ①英検・漢検等の資格を取得した生徒数60人以上。 ②部活動に対して意欲的に取り組む生徒の割合90%以上。 ボランティア学特講への参加生徒40人以上。 ③-1毎日挨拶をする生徒の割合75%。 ③-2遅刻件数年間1,000件以下。	Ⅱ） ①英語検定、漢字検定、数学検定、歴史検定の受検を奨励。英検233名、漢検40名、数検23名、歴検7名が受検した。1月現在で英検41名、漢検16名、数検6名、歴検7名が合格。（最終合否は3月中旬） ②部活動加入率は85%であった。 ボランティア学特講への参加生徒は5人。 ③-1毎日挨拶をする生徒の割合77%（相手がしたら挨拶をする生徒の割合22%）であった。 ③-2 遅刻件数年間1434件 （昨年度1313件）　ともに12月末まで				
	Ⅲ）鳴門教育大学などの関係機関や外部人材との連携	Ⅲ） 関係機関や外部人材との連携が「できている」、「ややできている」と感じる生徒の割合	Ⅲ） 関係機関や外部人材との連携ができている・どちらかといえばできていると感じる生徒は			

	が70%以上。	76%であった。	②加入率は90%に満たなかったが、部員数の少ない部においても、他校の顧問と連携を図り、合同練習や合同チームでの大会参加など、生徒の活動機会の確保に努めている。部活動適正化委員会では安心・安全な部活動となるよう、部活動顧問に対する情報伝達や情報共有の場を設けることができた。 ボランティア学特講は2・3年次対象であり、昨年度未受講の生徒に限定したため少数であった。 ③-1挨拶の習慣は概ね定着してきたように感じられる。しかしながら、自分から進んで挨拶を心がけることがこれからの課題である。 ③-2遅刻件数は、ここ数年増加の傾向にあり歯止めがきかない状況である。 Ⅲ） 鳴門教育大学・鳴門市役所・鳴門市教育委員会・企業などの講演や講座を通して、生徒たちに鳴門市を知る機会や世界から見た日本、地域貢献について考えさせることができた。また、関係機関の方々に成果発表会の審査をしていただき、講評や助言を生徒にフィードバックすることができた。さらに、学校運営協議会では、学校や地域の課題について委員の方々と熟議を深め、地域とともにある学校づくりの推進に努めた。 今年度も鳴教大院生presents「Miraiサポート」、鳴門教育大学教員(教授)の講義(幼児教育)も実施し、活発な連携ができた。 Ⅳ） ①-1交流会は1回であったが、お互いの高校生どうし、心温まる活動ができていた。中高生等による人権交流集会は、自ら考え積極的に取り組むことができた。人権を意	ん会」や「あいさつ運動」などを実施し、学校へ来たい雰囲気づくりをする取組を今後も継続してもらいたい。さらに学校全体でさまざまな角度から対策を講じていく必要がある。	実を図り、力を入れたい。部活動適正化委員会の実施についても実施回数、時期を検討し、トラブルの未然防止に努めたい。 ③委員会活動やいじめ防止委員会等、生徒が中心となって活動する取組が増加してきた。今後は生徒が主体となって、企画や運営に携わり、実施を進めていく活動内容に変革していきたい。遅刻に関しては今年度も増加傾向にあり、より具体的な方策が大きな課題である。遅刻数「見える化」プロジェクト等により、生徒指導課と生徒会が連携する。全校の遅刻数を週ごと、または月ごとにグラフ化し、目標との差を具体的に示して掲示するなど、学校全体でささやかな成功体験を共有し、生徒全員に現状を把握させ、目標達成へのモチベーションを高めていきたい。 Ⅲ）地域とともにある学校づくりのためには、関係機関との連携や協力が必須である。また、学校運営協議会で協議された貴重なご意見や提言を本校のスクールミッションに照らし合わせ教職員がひとつになり活性化につなげていくことが大切である。魅力ある鳴門高校となるように関係機関や外部人材との連携や事業をさらに深めていきたい。 Ⅳ）板野支援学校との交流会を年2回実施し、車椅子講習会を含めて多くの生徒が参加できるように働きかけたい。 人権学習HR活動を年5回計画・実施し、年次ごとの研究授業を開催することで活性化したい。また、鳴門高校に有用な教職員
Ⅳ）人権教育の推進	Ⅳ） ①-1板野支援学校との交流会を年2回実施。のべ100人以上参加。中高生等による人権交流集会へ5回以上参加。 ①-2人権を意識した行動ができたと感じる生徒の割合90%以上。	Ⅳ） ①-1板野支援学校との交流会は1回であったため、参加生徒は68名であった。中高生等による人権交流集会は10回参加した。 ①-2人権を意識した行動ができたと感じる生徒の割合は98%（R6年度卒：有意義であった。）			
Ⅰ） ①「各年次」 ②「各教科」	活動計画 Ⅰ） ①グローバルな視点を持ったテーマを用いた授業展開が10以上。 ②生徒への参加を促すため、情報発信を密に行う。総合的な探究の時間と連携し内容を深める機会を設ける。	活動計画の実施状況 Ⅰ） ①総合的な探究の時間を通して、1年次は鳴門の魅力について探究する授業等を13回、2年次は鳴門の魅力や可能性を客観的に捉え直し、地域資源を生かした持続可能な取組を提案するための授業を13回行った。3年次は地域貢献の視点から進路について探究する授業等を行った。 ②全校生徒に国際交流の行事について案内しオンライン交流については、国際交流部で実施した。また、各教科の授業を通して世界情勢や国際問題について学び、総合的な探究の時間で地域への社会貢献について考える探究活動に取り組ませた。			
Ⅱ） ①「進学課・就職課」 ②「特別活動課」 ③「生徒指導課」	Ⅱ） ①資格取得を奨励する。鳴門教育大学と連携し、2次面接等の対策を行う。 ②部活動適正化委員会の充実を図る。 ③-1交通委員や部活動生を中心に挨拶・マナー啓発運動を年に3回実施。 ③-2県外の好事例を収集し、有効な遅刻減少策を構築する。本校の特徴を分析し、増加傾向のある期間に遅刻減少週間を設け、啓発に努める。（9、10、11月増加傾向）	Ⅱ） ①英検、漢検、数検に加え、今年度新たに歴検を実施した。鳴門教育大学と連携した2次面接等の対策は実施できなかった。 ②部活動適正化委員会を1回開き、部費の管理、施設管理、ハラスメント防止などについて部活動顧問に伝達した。 ③-1生徒会役員や交通委員・部活動の有志のメンバーともに、市役所前での人の波キャンペーン活動2回、撫養駅での駐輪指導を行った。 ③-2生徒会やいじめやめん会の生徒が中心となり、登校時間帯に校門や昇降口で挨拶運動を実施した。また、明るく楽しい学校生活を送るための標語を作成し、ポケットティッシュに入れ込み、登校する生徒に配布した。			
Ⅲ） ①「進学課」、「企画推進課」	Ⅲ） ①鳴門市ボランティアガイド、鳴門市役所、鳴門教育大学と連携し、講座や講演等を年3回以上、フィールドワークを年1回実施。また学校運営協議会を年3回実施。実用英語検定や鳴門教育大学大学院生によるフィールドワークの実施、フィールドワーク中の大学院生によるTT授業、放課後週2回実施の個別補習「Miraiサポート」の開催。	Ⅲ） ①なると観光ボランティアガイド会、鳴門市役所、鳴門市教育委員会、鳴門教育大学と連携し、講座や講演等を7回、フィールドワークを1回実施した。また学校運営協議会を3回実施した。鳴門教育大学大学院学校教育研究科専門職学位課程高度学校教育実践専攻の実習生を受け入れた。鳴門教育大学院生による「Miraiサポート」）を数学・英語で週2回放課後に実施した。			
Ⅳ） ①「人権教育課」	Ⅳ） ①-1板野支援学校との交流会やヒューマンネットワーク部の活動を通じて人権が尊重さ	Ⅳ） ①-1板野支援学校との交流会は1回実施した。昨年度に続き本校での対面交流となっ			

		れ、温かい人間関係に包まれたホームルームづくり、学校全体の雰囲気づくりに努める。 ①-2人権学習HR活動を各年次年5回実施。教職員人権教育研修会を年2回実施。主体的に行動できる生徒を育てるホームルーム活動を実践。人権教育を教育活動の重要な柱とするための研修の充実。	た。本校生68名（板野支援学校41名）の参加であった。板野支援学校での交流は、感染症拡大のため中止となった。 ①-2人権学習HR活動は各年次年5回実施。教職員人権教育研修会は年2回実施できた。	識した行動を常に心がける生徒を育てていきたい。 ①-2人権HR活動は、常に普遍的な視点と個別人権課題をブラッシュアップして継続したい。		人権教育研修会を実施し、教職員に意識定着を図りたい。
地域に開かれた安心で安全な学校や社会を醸成する心の育成	Ⅰ）「生きる力」を育み、自他の命を尊重する、豊かな人間性を育成 Ⅱ）社会を生き抜くための実践力の育成 Ⅲ）PTA・同窓会との連携を図り地域に開かれた学校づくりの推進	評価指標 Ⅰ） ①-1SNSや交通ルール、公共マナー遵守ができていると感じる生徒の割合90%以上。 ①-2校則違反等の特別指導対象生徒5%以下。 ①-3自転車事故20件以下。 ①-4ヘルメット着用者30人以上。 ②-1ストレスや悩みに対して解消する力や相談できる力が付いたと感じる生徒80%。 ②-2悩み事を相談できる人がいる生徒の割合が、85%以上。 Ⅱ） ①-1消費者としての権利と責任を理解し、社会に対して責任ある消費行動をしていきたいと考える生徒の割合80%以上。 ①-2主体的に社会に参画していきたいと考える生徒の割合80%。 ②本校災害時避難場所になることを踏まえ、防災意識が高まった生徒の割合80%。 ③規則正しい生活ができていると感じる生徒の割合90%以上。 Ⅲ） ①PTAの行事である総会・県外大学視察・体育祭ジュース販売・テーブルマナー講習会等の案内と実施報告をホームページ等で情報発信し、総会参加者200人以上、その他各行事の参加者10名以上。	評価指標の達成度 Ⅰ） ①-1SNSや交通ルール、公共マナー遵守ができていると感じる生徒の割合97%。 ①-2校則違反等の特別指導対象生徒0.4%（3名） ①-3自転車事故件数25件（昨年度20件）。 ①-4ヘルメット着用者35人（昨年度30名）。 ②-1ストレスマネジメント講座（1年次対象）の実施後のアンケートからストレスや悩みに対して解消する力や相談できる力が付いたと感じる生徒は86%を越えた。 ②-2悩み事を相談できる人がいる生徒の割合が90%。（1年次87%、2年次91%、3年次92%） Ⅱ） ①-1消費者としての権利と責任を理解し、社会に対して責任ある消費行動ができる・どちらかといえばできる生徒の割合は93%であった。 ①-2選挙や街づくりに主体的に関わってみたいと考える生徒は78%であった。 ②アンケートの結果、防災意識が高まった、やや高まったと答えた生徒を合わせると99%になった。 ③規則正しい生活ができていると感じる生徒の割合98%。 Ⅲ） 各行事の案内をClassiと文書の両方で実施したので、前年度よりたくさんの保護者に伝わったと思う。総会参加者が210名、県外大学視察（同志社大学）15名、体育祭ジュース販売11名、テーブルマナー講習会10名だった。	（評定） **B** （所見） Ⅰ） ①交通ルール、公共マナー遵守ができていると感じる生徒の割合も増加し、特別指導における生徒も減少傾向である。ヘルメット着用者数は、昨年度に比べ増加したが、交通事故件数は増加した。（25件）。 ②ストレスマネジメント講座や実態調査を通して、必要な支援を早期に開始することができるようになるとともに、自分のストレス解消に取り組んだり、悩み事を相談したりする生徒が増えた。（90%） また、生徒が主体となったいじめ防止委員会（いじめやめん会）等の取組によって、学校を楽しく感じられる生徒の割合も増加した。（92%） Ⅱ） ①-1消費者教育分野においては、多角的な取組を行い、その結果、消費者としての権利と責任を理解し、社会に対して責任ある消費行動ができると回答した生徒の割合は93%に達し、消費者教育の取組が生徒の意識向上に大きく寄与したと評価できる。 ①-2鳴門市議会事務局の協力を得ることで、地域の題材で学び、その過程と成果を地域に発信することができた。 ②地震の際は机の下にもぐることになっているがいつも机がある場所にいるとは限らない。どこにいても自身で身	自転車事故を防ぐために啓発ポスターの掲示や、警察と連携した取組を引き続きお願いしたい。入学者説明会やPTA総会を活用して、警察の方にヘルメット着用について、また自転車のルール改正について啓発活動を行ってもらうことは、生徒の命を守る行動につながるので大いに評価している。 また、自転車は加害者にも被害者にもなりうるので、法改正による青切符制度の周知徹底等、次年度も啓発活動をすすめてほしい。	Ⅰ） ①全体として落ち着いた学校生活を送ることができている。しかしながら、生徒が感じているルールやマナーの遵守は向上しているが、学校に対する地域のからアドバスは依然と増加している。生徒自身の規範レベルを上げることや、継続した意識改革を行うことによって地域からの信頼や応援をいただくことができるはずである。 いじめ防止委員会や委員会活動等、生徒が主体となって活動する取組が増えてきた。挨拶を進んでする生徒も増加（77%、昨年度71%）しており、今後も継続した指導に取り組んでいきたい。 JR撫養駅の利用状況や自転車置き場のマナーが少し課題になっている。校内での駐輪場等は整理整頓ができており、校外でも同等の行動ができるよう意識改革を図っていきたい。 ②1年次でのストレスマネジメント講座や年2回の実態調査は引き続き行い、校内の支援体制の整備と充実に努めたい。また、不登校傾向の見られる生徒に対しては個別にストレスチェック等を勧め、生徒のメンタルヘルスの改善に努めたい。 Ⅱ） ①カリキュラムマネジメントの観点から、教科における単元学習と外部機関による出前講座や総合的な探究の時間との効果的、効率的な連携を図る。学
	Ⅰ） ①「生徒指導課」 ②「教育相談課」	活動計画 Ⅰ） ①毎月0の付く日に駐輪指導・立哨指導を実施する。鳴門市小・中学校と連携し、ヘルメット着用や自転車マナー向上等の啓発活動を年2回実施。ヘルメットアンバサダーを中心に着用促進・啓発活動を実施。 ②-1スクールカウンセラーと連携し、1年次生を対象にストレスマネジメント講座を実施。 ②-2支援の必要な生徒の早期発見の為、教員を対象に生徒の学校生活に関する実態調査を実施。	活動計画の実施状況 Ⅰ） ①学期に2回、学校周辺道路の危険箇所において、全副担任・年次付きの教員で立哨指導を行った。また、月に2回、駐輪指導を行った。ヘルメットアンバサダーを中心に撫養駅でのDJポリスを行うなど啓発運動を行った。 ②-1スクールカウンセラーと連携し、1年次生を対象にストレスマネジメント講座を実施した。講座後には「自分のストレスに気づき、ストレス解消法を知れて良かった」「今後も学んだストレス解消方法をやっていきたい」という講座の効果を感じた生徒が大多数であった。			

			②-2支援の必要な生徒の早期発見の為、7月と2月に教員を対象に生徒の学校生活に関る実態調査を実施し、年次会等で共通理解を図り、その後の生徒対応や次年度への引継ぎに生かした。	の安全を守ることができるように考える習慣をつけることが望まれる。 ③感染症対策以外に歯科衛生や肥満傾向の改善など、生活習慣にかかわる健康課題について啓発を行い、一定の改善を見ることができた。		びが深まる消費者教育、主権者教育を実践し、主体的な社会参画意欲の更なる向上をめざす。
	Ⅱ） ①[消費者教育・主権者教育] ②[環境防災教育] ③[保健衛生教育]	Ⅱ） ①-1家庭科の授業や専門家による消費者教育講演会の実施等を通して、賢い消費者としての行動し、実践する力を養う。 ①-2鳴門市議会事務局や選挙管理委員会と連携し、社会参画力を育む授業を構想、実施。 ②災害の学習に関する行事（避難訓練含む）を年間3回以上実施。 ③-1「保健だより」の発行を年10回以上行う。 ③-2 健康に関する講座を年3回以上実施。	Ⅱ） ①-1家庭基礎の消費経済分野で自身の生活に照らし合わせた授業を展開し、かつ阿波銀行アセットコンサルティング部アドバイザー岡本氏による「個人の資産形成と社会の経済活動の活性化について」の講演会を実施した。 ①-2 11月の鳴門市長・市議会議員選挙を見据え、公民科において主権者教育に関する単元を構想し実施した。また、『鳴門市議会だより』の特設ページ作成を通して、学校づくりと地域づくりを関わらせて考えさせ、主権者意識の醸成を図った。選挙に主体的に関わってみたいと考える生徒は78%であった。 ②避難訓練を3回、防災に関する講演を1回、合計4回災害に関する行事を実施した。 ③-1「保健だより」を15回発行した。 ③-2健康に関する講座を4回実施した。	Ⅲ） ①色々なご意見を頂き、Classiと文書で案内した成果がでた。		②どこで地震等に遭っても対応できる力を身につけさせるため避難訓練を昼休みにするなど今までにしていない時間帯で避難訓練を実施する。 ③感染症対策を徹底するとともに、健康相談、健康講座などを通じて、個別の悩みに対応できる取組を充実していきたい。 Ⅲ） 各行事で今年より更に保護者に案内が伝わり、ご理解ご協力して頂けるようにClassiでの回答数を高められるようにしていきたい。
	Ⅲ） ①[総務課] ＰＴＡ・同窓会との連携を図り、ホームページ等の情報発信や教育活動の公開を積極的に推進する。	Ⅲ） ①学校運営協議会から意見を募り、有効な手立てを構築し、実施。	Ⅲ） 各行事の案内文書が保護者に伝わっていない所もある。各行事の案内をClassiと文書の両方で実施した。			

＊「評定」の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった